

*****ガザミ資源回復の取り組み*****

資源研究部 森下貴文

【ガザミって何?】

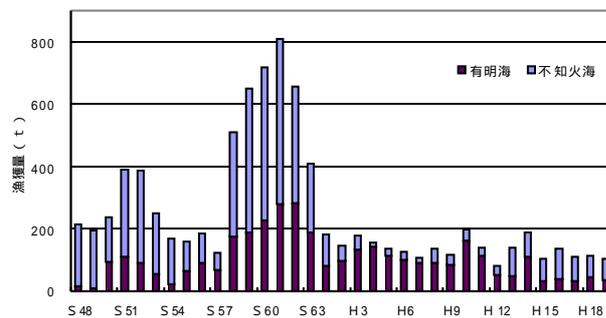
ガザミは、5本目の足の先がオールの形をしていて、海の中を自由に泳ぎ回ることから「ワタリガニ」とも呼ばれている一般的なカニです。

ゆでガニや蒸しガニ、みそ汁などで食べられるほか、韓国料理では、ケジャン（カニの塩漬け）の材料としても親しまれています。

【ガザミの漁獲量は?】

熊本県では、ガザミを始めとしたガザミ類の漁獲量は、昭和61年の808トン进行ピークに、近年では100トン程度まで減少しています。

ガザミ類漁獲量推移（資料：熊本農林水産統計年報）



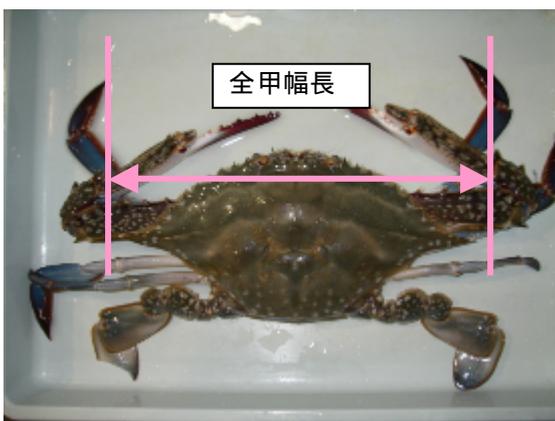
【漁業者の取り組み】

減少したガザミの資源を回復させるため、漁業者が次の2つの取り組みを自主的に行っています。

小型ガザミの再放流（甲羅の左右に突き出したけん先から先までの長さ（全甲幅長）12cm以下）

抱卵ガザミ（卵を持ったガザミ）の保護（再放流や放卵（卵を出させること）後の出荷）

の小型ガザミの再放流は、徹底した取り組みが行われ、市場にもほとんど出荷されていません。しかし、の抱卵ガザミの保護の取り組みは、なかなか進んでいない状況です。



ガザミ



抱卵ガザミ

その理由としては、

- ・ 放卵までに手間や時間がかかる
- ・ 放卵中に死ぬ可能性がある

- ・ 放卵させなくても出荷できる
などが挙げられます。

【抱卵ガザミ保護のための試験】

そこで、抱卵ガザミの保護の取り組みが進むように、活魚コンテナ（44cm×68cm×28cm）を用いた試験を6月から7月にかけて行いました。試験では、適正収容尾数、重量の変化、放卵までの日数、生残率、県内のある漁協における放卵前後のガザミ単価の比較等を調べました。

なお、試験時の早朝の海水温は21.3～29.6、活魚コンテナには、11尾から20尾の黒デコ（あと数日で放卵する黒い卵を持ったガザミ）を収容しました。

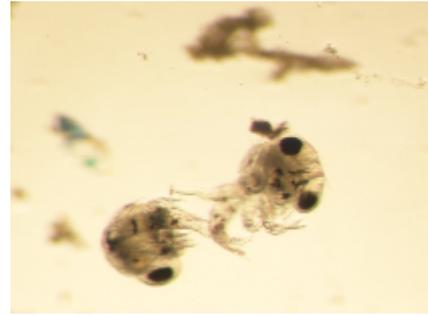


写真 ふ化したばかりのガザミの赤ちゃん

【試験結果】

放卵前後の重量減耗率（死んだガザミの重量含む）は、20%程度となりました。

収容した黒デコの80%が完全に放卵するまで、丸2日かかりました。

抱卵ガザミが漁獲される5月～9月の放卵前後のガザミの単価は、全期間において放卵後の単価が高いが、単価の上昇で重量の減少を補えない時期があるという結果になりました。



写真 試験に使用した活魚コンテナ

【試験結果からわかったこと】

抱卵ガザミの保護（放卵後出荷）の取り組みが普及するためには、ガザミの単価向上が第一と考えます。

今年度の結果から、ガザミの資源管理を行いつつ、ガザミの単価を向上させるには、漁期開始の5月から6月までが適当な時期と考えられました。

【今後の取り組み】

多くのガザミが集荷されて取り扱われている漁協において現地試験を行い、効果的な抱卵ガザミの保護の方法を検討します。

また、漁業者の方が積極的にガザミの保護に取り組めるような手法を開発していきます。